治療教育ひとすじ95年のあゆみ

三田谷治療教育院 未来への光

さんだや

社会福祉法人 三田谷治療教育院 編集　全2巻　〈2022年12月刊行予定〉

日々の実践こそが、福祉の本質である。

治療と教育は、
すべて人間を
トータルにとらえてこそ
真の力が発揮される。

福祉の現場に携わる者は、
支援を必要とする人に対するに
みずからの
裏打ちされた信念と経験という
手と顔と心をもって
あたらなければならない。

刻々と変化する社会、制度、慣習、環境――
人と人、家族・親と子、人間関係は
大きく変貌してきた。
しかし、この地の95年の日々の営みには
普遍の〝人間〟の姿が、刻印されている――
いま福祉に携わり、関心を抱くすべての人が、
これから世界は、日本はどうあるべきか、
いま何をすべきかを見つめ、考え、
希望の光を見いだすための

一施設の克明な実践記録

●創設者

没後60年

三田谷 啓
（さんだや・ひらく）
1881～1962
明治14～昭和37

1927-2022

創立 1927（昭和2）年　95周年

＊現在の法人全景と〈事業・組織〉
（兵庫県芦屋市楠町）

1. 本館（法人本部事務室、**治療教育室**）
2. **三田谷学園**〈福祉型障害児入所施設〉児童棟　3. 食堂棟
4. 北館・**芦屋翠ホーム**〈障害者支援施設〉
5. 南館（芦屋翠ホーム、**ワークホームつつじ**〈多機能型事業所〉、地域交流ホール）
6. コミュニティハウス
7. **グループホーム燈**〈地域生活支援センター〉、ワークホームつつじ作業室
8. **芦屋市立すくすく学級**

［指定管理］**明石市立あおぞら園 / きらきら**〈福祉型児童発達支援センター / 児童発達支援事業〉　**明石市立ゆりかご園**〈福祉型児童発達支援センター〉

法人理念

三田谷治療教育院

この法人に属する全ての事業は障がいのある人に「治療教育」をもってあたる。

①人権を尊重し、個性を大切にする。
②寄り添いつつ、よく観察し個々の持っているものを引出す支援をする。
③人を一面的でなく「丸ごと」とらえようとする。
④職員の専門性を重視する。
⑤職員間のチームワークとネットワークをはかる。
⑥「くらし」、「生活の向上」を志向する。
⑦地域貢献を果たす。

〈発行〉
学術資料出版
大空社出版
資料に命を作品に心を形にして伝える。
www.ozorasha.co.jp
東京都北区中十条 4-3-2（〒114-0032）
Tel: 03-5963-4451　Fax: 03-5963-4461

治療教育ひとすじ95年のあゆみ

三田谷治療教育院 未来への光

さんだや

社会福祉法人三田谷治療教育院 編集　全2巻（本文編・資料編）

〈年表〉から資料を、〈資料〉から年表を読むの往復。机上のものでない、血の通った人間による“実践の具体的記録”が現在・未来の読者に語りかけてくる。

［本文編］（全V部16章）

①三田谷啓、治療教育院設立までの歩み　～1926
②設立から戦争期　～1945・昭和20
③戦後の復興から　～1962・昭和37
④福祉施設としての拡充　～1983・昭和58
⑤足元を見据えながら　～2006・平成18
⑥阪神・淡路大震災 1995.1.17
⑦初志「治療教育」を求めて　～2022.4・令和4

刊行に当たって（堺孰）　〈前書〉三田谷の歴史から考える、医療・教育・福祉の連繋の本質（西牧謙吾）　〈後書〉三田谷啓と三田谷治療教育院の存在と意義、私的回想（津曲裕次）

〈編集後記〉“95年史”刊行に至るまで（駒松仁子）＊いずれも仮題

三田谷治療教育院総合年表（日誌・報告・月報等諸記録を総動員し、日々の生活と現場の活動が背景社会の動きを参照しながら読める詳細年表。約200頁超）　＊付・年表／索引（固有名詞・主要事項）

三田谷啓著作目録（「年月日」順配列の初の網羅的目録）

参考文献（関連領域の基本文献を可能な限り集約）

三田谷治療教育院保存史料概要（1世紀にわたり保存・保管されてきた設立・運営・教育等の史料原本の概要）

［資料編］

①本文編の原資料（記録翻刻、三田谷啓の活動記録〔講演・母の会等・展覧会等〕）　②三田谷治療教育院「通信」類翻刻（月報「翠ヶ丘」「三田谷学園だより」等、院と学園の生活・動向を細かに伝える通信・報告）

【執筆】〈総監修〉堺孰（みのる）三田谷治療教育院理事長
津曲裕次 筑波大学名誉教授〈主幹〉　駒松仁子 元国立看護大学校教授
西牧謙吾 国立障害者リハビリテーションセンター病院長（寄稿）

●本書関連の主な領域

治療教育　福祉施設・社会事業　福祉政策・制度
児童・子ども・小児　児童相談・児童保護・児童福祉
母親・母性・育児　医学・医療・看護・ケア
保健・衛生・リハビリテーション　教養・養護
障害児者・特殊教育・特別支援教育

近現代史　世界大戦・占領期　教育史　義務教育　特別学級
養護学校　精神・心理・発達　優生思想　阪神・淡路大震災
家族・社会・地域　奉仕・支援　生涯学習　大阪・阪神…

★2022年12月刊行予定

治療教育ひとすじ95年のあゆみ
三田谷治療教育院 未来への光
編集 三田谷治療教育院　全2巻
発行 大空社出版／三田谷治療教育院〈共同出版〉
［体裁］B5判・上製・各約500頁
全2巻セット ISBN978-4-86688-231-4
定価37,400円（本体34,000円＋税10%）〈分売不可〉

発刊記念【特別価格】
31,900円（本体29,000円＋税10%）

特別価格期限 2023年3月31日
（以後は定価となります）

“福祉”は社会はどうあるべきか。先駆的事業の数々と“人を総合的にとらえる”不動の信念に貫かれた真にユニークな施設の1世紀の実践の歴史。

三田谷啓（さんだや・ひらく　1881・明治14～1962・昭和37）
三田谷治療教育院 小史

■兵庫県有馬郡塩瀬村名塩（現・西宮市）生まれ。尋常小学校4年修了後、家業・農業を手伝いながら博文館の雑誌等で独学、17歳でさらなる勉学を志し大阪へ出奔、自活しながら教育者を目指すうち、医学の道を知り1年に満たない受験準備で大阪医学校予科入学（後・大阪府立高等医学校〔大阪大学医学部前身〕、在学中に受洗）。

■卒業後、東京に出、富士川游（医史）を中心として呉秀三・三宅鉱一・片山国嘉・高島平三郎・下田次郎他の医学（精神病学）・児童学・教育学領域の錚々たる学者の指導を受けながら、児童の教養（教育）を医学の側から実践する「治療教育」に着目し、その領域で世界を先導していたドイツに留学（1911）、ゲッチンゲン大学で医学の学位取得、その後教育等の研究とともに国家政策・行政の実際と治療教育施設の訪問と見聞を重ね、第一次世界大戦勃発のため3年余りで帰国。

■帰国後、児童の教養（教育・衛生等）で立ち遅れる日本の惨状に警告を発し、「治療教育」機関設立が急務であることを訴え続け、1918年大阪市医員に招かれると、本邦初の公立児童相談所設置ほか多くの社会事業を精力的に展開した（**ビネー・シモン智力検査法のいち早い適用も**）。1921年依願退職後、民間での啓蒙活動（講演・展覧会・ラジオ放送・出版等）を継続しながら、国を頼らず治療教育機関設立に奔走、1927・昭和2年8月、精道村（現・芦屋市）に「三田谷治療教育院」を設立、入寮制で生活を共にしながらの教育・治療を基本とする「コドモの学園」事業が開始された。以後、**“母と涙の二等分”**を心の柱とする母親・母性教育と並行しながら精力的に治療教育を実践していった。

■1938・昭和13年、特殊児童のために設けられた「私立翠丘（みどりがおか）尋常小学校」を併設（**芦屋児童の村小学校を移転**）、戦後1948・昭和23年・児童福祉法下で精神薄弱児施設、1952年・社会福祉法人となり、多数の児童を育て社会に送り出し（**ヘレン・ケラー、パール・バックら内外の多くの著名人と福祉を通じて交流も**）、三田谷啓昇天（1962年5月。**生涯のモットー「よく用いられたる人生は永し」**）後も、激動・変化する社会と人間に適応した福祉施設として注視される中心的存在であり続けた。

■1993・平成5年、1法人下3施設の経営形態になり（1995年1月、阪神・淡路大震災を乗り越え）、以後、目まぐるしく変容する法制度と社会状況に流されることなく、三田谷啓が掲げた初志「治療教育」を不変の活動理念として、総合複合的福祉事業に邁進しつづけている（**現在の構成は表面参照**）。また、第二次世界大戦、阪神・淡路大震災の災厄・災難を奇跡的に逃れた、創立以来の「治療教育」の実践記録・経営記録と図書（三田谷啓がドイツ留学から持ち帰った厖大な外国語書籍・雑誌を含む医学・教育中心の貴重文献）類は、史的資料を保存する国内の稀有な福祉施設として注目される存在となっている。

●お取り扱い

2210-2